

俳句を作ろう

氏名 _____ 年組 _____ 番 _____

その1：俳句って何？

○ 俳句とは、世界でもっとも短い詩と言われるほどで、たった十七音の言葉しか使われていません。それだけに、短い音の中に豊かな味わいをもたせている。俳句というものは、最も芸術性の高い文学だと言われています。

◇その特徴(きまり、ことなど)

ア 歯切れのよいリズム

五・七・五 → 音数にきまりがある

5 古池や かはづ飛びこむ 水の音 5

イ 季節感が豊か

季語 → 季節をあらわす語を必ず用いる

「桜」…春 「螢」…夏

「梨」…秋 「霜柱」…冬

秋の季語 柿くへば 鐘が鳴るなり 法隆寺

夏の季語 梅雨のけふ 田植えてみどり 深くする

ウ その他

切れ字 → 内容や調子を整え、句と句を切り離す役割を持つ

この切れ字をふくむ部分が作者の感動の中心となる

切れ字の種類 ↓ けり かな や らむ ぞ か よ なり :

菜の花や 月は東に日は西に

名月を取ってくれりと泣く子かな

※切れ字があると句切れを引き起こす

注 俳句には季語があるといったが、その季節は現代の季節とは少し違い、ひと月弱ずれている

旧 暦	現代の月	春	夏	秋	冬
昔の月 季節の はじまり	三月～五月	五月～三月	六月～八月	九月～十一月	十二月～二月
現代の 二月四日頃～	立春～	現代の 四月～六月	立夏～	現代の 七月～九月	現代の 十月～十二月
		現代の 五月六日頃～		現代の 八月八日頃～	現代の 十一月八日頃～

その2：俳句の味わい方って？

○ 俳句をより豊かにもしく読むためには、書いてあることだけを理解してもだめなのです。たった十七音(仮名にして十七字)しかないのですから、あとは読み手が想像力を十分に働かせて、イメージを広げなくてはならないのです。そして、そこでは作者の味方になって想像してあげる気持ちが大事です。

その読み味わい方

ア 季節をとらえる

イ 切れ字など表現上の特徴をとらえる

ウ 情景をとらえる

エ 作者の気持ち(感動)をとらえる

【練習】次の句を味わってみよう

あをあをと空を残して蝶分け

大野林火

1 この句の季語と季節は

季語 () 季節 ()

2 切れ字は使われていますか ()

3 この句の情景

☆何が見えますか

() と () ()

※ ここまでは基本的なことなのです。これだけでは俳句を味わったことにはなりません！

そらで

イメージをふくらませるために、人間の感覚器官である

五感

視覚…見えるもの、聴覚…聞こえるもの、
触覚…てざわり・はだざわり、嗅覚…におい
味覚…あじ・舌ざわり など

を総動員して、感じとってみよう

☆この日の天気は (目で) → ()

☆この日の陽気は (肌で) → ()

☆この日の時刻は → ()

☆空と蝶のほかに見えるものがないか、よくみわたしてみよう
色も感じ取ろう (目で)

☆場所はどこだろう → ()

☆においはないかな (鼻で) → ()

☆この日の音 (耳で) → ()

☆蝶の種類 (目で)

・ 大きさ → ()

・ 色 → ()

()

☆蝶の数 (何羽がふさわしいか) (目で) → ()

☆蝶の動きは (どんなふう飛んでどうなったか) (目で)

()

☆作者の視線の動きは

()

☆そのあとに残ったものは (目で)

()

☆それに何を感じますか

()

俳句を作ろう

氏名
年組
番

◎ さて、それでは、これまでをまとめ、鑑賞文にして書いてみましょう。

鑑賞文

よく晴れた暖かい春の野原（草原）には、さわやかな風がそよぎ、草の香りを運んでくる。そこへ二羽の小さな白い蝶が、たわむれながら、らせん状に舞い上がる。見上げた空にくっきりと映える白い蝶。いつともなく二手に分かれていったあとに残る画面。いつとどの青い大空。自分の心までも、すーつと吸い込まれるような、すがすがしく、さわやかな、どこまでも果てしなく続く、青い大空よ。

鑑賞文例

◆ さあ、どうでしょう。この句の作者の感動は、残された空の美しさにあつたのです。それは、我々が忘れかけていた自然の美しさなのです。きつと、ごく身近なところに、見失いかけた美しい自然が残っていることでしょうか。心をこめて歌える自然がまだ、どこかにはあるはずですよ。

※ たった、十七音、その中にぎゅりつまった詩（芸術）を感じとって見てください。『想像する』ことが俳句を理解する近道です。

POINT: 俳句の作り方について

○ 俳句は前にも述べたように、非常に短い詩なのです。仮名で字数としてかぞえてもたった十七文字、しかも五・七・五の中におさめなくてはなりません。それだけに使う言葉をしっかりとえらばなくてはいけないのです。

その作り方

ア 自分の近辺をよく見わたし、美しいもの、感動的なものを探す。 **（書く材料を探す）**

イ 材料が決まったら、読み手の立場になって（読み手が、より大きくイメージをふくらませるような）いい言葉を探す。 ……季語もみつけよう

ウ 日本特有の五・七・五のリズムをこわさず、それを生かす。切れ字を用いたりして整えるのもよい。

例

夏河を越すうれしきよ手に草履さうり
与謝蕪村

ア 旅の途中で、谷川を渡った時、つかれきってほてった足につたわる、冷たい水の心地よさ………**材料**

イ 「手に草履」と書くことによって、必然的にはだしであることを示し、また、手に持っているという様子のおかしさ、おもしろさもだせる。「つまたさよ」と書かずに「うれしきよ」と書くことによって、より読者のイメージの中に入りこむことができる。…**言葉さがし** 季語は「夏河」

ウ 切れ字「よ」を用いて、その「うれしい」という気持ちを強調させるとともに語調を整える。

▽ さあ、アイデアを生かして、いろいろ創ってみよう

年
組
番
氏名

--	--	--	--	--	--

年
組
番
氏名

--	--	--	--	--	--